

現 状

除雪手法は、降り積もった雪を掻き分け除雪が基本
車両走行により踏み固められた雪が概ね30cmとなるように管理

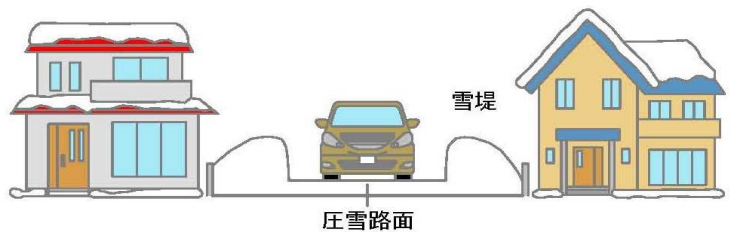
○メリット

道路脇に積む雪の量を抑え、幅員を限りなく広く保つことのできる
排雪量を抑制できる

○デメリット

近年の季節外れの降雨や暖気によりザクザク路面が発生
暖気が続くなど気象状況により解消に時間を要する

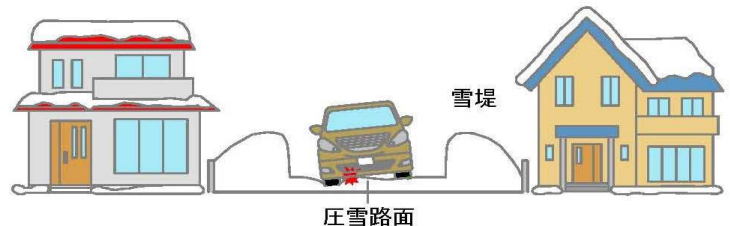
現行



暖気や降雨
↓
圧雪路面の破壊

ザクザク路面对策は、一般交通の影響を考慮しながら路面の表面を削り段差を無くす対応

ザクザク路面



試 行

出勤基準に満たない降雪が続いた場合でも定期的に不陸整正作業を実施
除雪時に一定程度路面を削る作業を実施

○想定されるメリット

圧雪厚を予め薄くすることでザクザク路面による影響を低下
走行路面の平坦性が保たれる

○想定されるデメリット

圧雪厚分の雪の堆積量が増加 ⇒ 排雪量の増加
幅員の減少、雪山の増大

試行路面



【R3 試行の検証】

○気象状況や取組

- ・ 4 統合地区ごとに1箇所のモデル地区を定めて実施
- ・ まとまった降雪が比較的少ない穏やかな気象状況
- ・ 生活道路の排雪強化の取組を実施（基本1回から2回へ倍増）
- ・ 除排雪体制の強化を図るため除雪地区を4つの地区に統合（7地区→4地区）

○試行の結果

- ・ 除雪地区の統合により排雪作業がスムーズに進んだことや穏やかな気象状況であったことにより
⇒ モデル地区の内外で道路幅や圧雪厚の差が出なかった
⇒ 広い範囲でのザクザクの発生もなかった
⇒ 地区要望：家の前にかたい雪を置かないでほしいとの数件の苦情

路面管理手法の比較が難しいシーズン

《 R 4 以降も継続的な試行と検証が必要 》